



仲間と演奏する喜び



下関市役所吹奏楽団のメンバー
(関門海峡をバックに)

私が所属する下関市役所吹奏楽団は、多くの市民の皆さんに市政により親しみを感じていただくと同時に、市の主催行事などを盛り上げるため、イベントや地域のお祭りなど、年間20回程度の出演依頼に応えています。その中には、帆船や客船などの入・出港式典という海峡の街ならではの行事もあります。

通常の練習は毎週木曜日と金曜日の業務終了後に行なっています。色々な職場から様々な職種の職員が集まっていますが、中には職場から1時間以上の移動時間をかけて練習に来る団員もいます。通常行っている仕事では出会えない職員とのつながりもでき、また、演奏する際には職場での上下関係とは違う関わり方ができるので、自分自身の視野も広がります。

現在は約20人で活動していますが、私が入団した平成4年当時は団員の平均年齢がかなり高く、また、一時は団員が少なくなり、存続自体が危ぶまれることもありました。しかし、中尾友昭下関市長をはじめ、幹部職員の皆さんの温かいご助力もあって充実を図ることができ、さらに今年



下関市民オーケストラのメンバー。第26回定期演奏会に向けてサン＝サーンスのチェロ協奏曲の練習を行った



松田貢一

下関市総合政策部広報広聴課主査（広報係長）
兼下関市国勢調査本部班長

【まつだ こういち】1968年山口県下関市生まれ。中央大学卒業後、1992年下関市役所に入庁。下関市役所吹奏楽団団員。プライベートでは下関市民オーケストラインスペクター（進行マネージャー）でもある。

は4人もの新入団員を迎えることができました。

私はフレンチホルン（一般的には単に「ホルン」と言います）という楽器を担当していますが、実は高校時代、吹奏楽部でトランペットを吹いていました。大学に入学してからは管弦楽部に入ったのですが、入部当初に先輩から「トランペットパートはたくさんいるから、ホルンを吹かない？ホルンはオーケストラの華だよ！」と言われて、ホルンを吹くことになりました。

大学卒業以来、市役所吹奏楽団や市内のアマチュアオーケストラである「下関市民オーケストラ」で演奏活動をする中で、仕事が忙しくて練習する時間がなくなったり、思うような演奏ができなくて何度かやめようと思った時期もありました。しかし、指揮者と演奏者全員が一体となって素晴らしい演奏が生まれることがあります。私自身は数回しか体験したことがありませんが、まさに心が震える、芸術が人生にある喜びを感じられる瞬間です。その喜びが忘れられず、時間を見つけては地味な基礎練習に励んでいます。

この感動を味わうことができたのは、下関市民オーケストラのトレーナーであり、私の高校時代の恩師でもある友永次郎先生からいただいた「アンサンブルは思いやり」「練習は裏切らない」という言葉、そして素晴らしい仲間に出会えたからだと感じています。合奏の楽しみは、決して一人では味わうことができないものです。これからも仲間を大切に、刺激を受け、寄り添い、一緒に音楽を創り上げるという姿勢と日々の努力を大切にしていきたいと思います。

平成24年2月、高松市役所吹奏楽団の演奏会に出演させていただいた翌日、下関市役所吹奏楽団のメンバーで金毘羅詣をしました

